

MINAKO Report

平成23年度 第5回定例会報告号

Vol. 3
2012 年冬号



平成23年度第5回定例会は、12月5日(月)から22日(木)まで開催され、市長提出議案14件、請願3件が審査されました。また、一般質問では議長・副議長を除く20名中17名の議員が発言通告をしており、活発な議論が展開されました。私の一般質問と答弁の要旨は裏面に掲載いたしますのでご意見をお寄せ下さい。

—— 中学校給食実施を求める請願が本会議で採択されました ——

芦屋市内の小中学校の保護者らで作る「中学校給食を実現する会」から提出された中学校給食実施を求める請願が、12月22日の芦屋市議会本会議において「賛成多数」で採択されました。請願審査では「給食実施の方式については自校直営方式も含めて方式にこだわらず、まず芦屋で中学校給食を実施するという一歩を踏み出すものである」ということが確認されました。本会議最終日にはイーブンあしやを代表して私が賛成討論に立ちました。

—— 中学校給食アンケート調査結果について ——

芦屋市で一番大きな課題となっている中学校給食問題については、市教育委員会が10月にアンケートを実施しましたが、保護者75%、市民71%、生徒54%と給食実施を望む声が圧倒的に多く、これに対して教職員は14%にとどまりました。

学校給食は、栄養バランスのとれた安心・安全な食事を子どもに提供することにより、健康の保持や増進、また体力の向上を図ることはもちろん、食育の観点からも「生きた教材」として活用できるものであり、大きな教育的意義を有しています。また、文部科学省の2009年度の調査によると、全国の公立中学校における給食の実施率は81.6%で、兵庫県で実施していないのは芦屋市を含めて5市だけです。

かねてより中学校給食の実現に向けては、議会において何度も議論されてきましたが、行政が今もなお消極的な中でこのアンケート調査の結果を重く受け止めて頂き、民意に沿って「中学校昼食を考える懇話会」を進行してほしいと強く願います。

私の会派(イーブンあしや)では、2011年10月に名古屋市におけるスクールランチの視察をして参りましたが、調理形態に関しては(自校直営式、民間委託式、センター式、スクールランチ式など)多様である中、今後できるだけ経費のかからない方式での中学校給食の実施を求めて参ります。

—— 山手町・南芦屋浜に私立保育園建設予定 ——

芦屋市における待機児童は現在280人となり、特にお子様のいる世帯や、これから働きたいと思っている母親に大きくのしかかっております。その解消については緊急の課題ですが、この度、市内の2か所に私立保育園建設予定の協議が行われていることを市が明らかにしました。この内、山手町の新設保育園は定員が70人で平成25年度中に開園予定です。また南芦屋浜地区の新設保育園は定員が80人で、同じく平成25年度中に開園予定となっております。

これを受けて、保護者や自治会との協議が難航していた「潮見小学校敷地内(一部潮見幼稚園用地を含む)での私立保育園誘致」の取り組みは保留となりました。

市長は保育所待機児童解消のため、任期中に180人の定員増をマニフェストに掲げています。この山手町と南芦屋浜の2か所の新設保育園(定員合計150人)に来春から認可保育園に移行する保育園(定員30人)を加えると180人になりますが、しっかり子育てができるまちとして、問題が解決するまで引き続き取り組む課題であると考えます。

—— 芦屋病院建て替え工事の現地視察に参りました ——

12月12日(月)、芦屋病院建て替え工事の現地視察がありました。病棟の建て替えは、現地の土壌の搬出作業のため当初より竣工が2カ月遅れているものの、新病棟のオープンは、6月15日(金)を予定しています。現在、外来棟においては診療を続けながらの大規模工事が行われていますが、環境改善が図られた病院としてグランドオープンする新たな芦屋病院に期待したいです。

福井みな子の一般質問

本会議で行う一般質問とは、各議員が市民要望を交えながら市役所側に質問や政策提言を行う事です。

12月13日(火)の一般質問では激化する国際競争の中、①大きな夢を持って生き生きと成長していく子どもの為に「小中学校におけるキャリア教育について」と②芦屋市の市民サービスの基本となる「市職員の接遇向上に向けて」の2項目について質問致しましたので、一部の質問をご報告します。

*①小中学校におけるキャリア教育について

〈質問〉 近年の教育改革の中、平成20年1月に中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の答申が出された。その中でも「キャリア教育」については特に注目されており、「産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化を背景に就職や進学をめぐる環境が大きく変化する中、将来子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実させる必要がある」とされている。望ましい勤労観や職業観を育成するための、市内小中学校におけるキャリア教育のあり方について、見解と現状を問う。

〈答弁〉 「芦屋の教育指針」の中でも、キャリア教育の推進を新たな重点目標の一つとして位置づけ、充実に向けて教育を進めている。小学校では「キャリア教育の基盤作りの時期」と捉え、中学校でも「自らの生き方や進路について考え、将来設計について計画的に取り組む態度を養い、進路の選択、決定に導くこと」を目標にキャリア教育を行っている。



キャリア教育の充実を図るため、小中学校からの発達段階に応じた、学校によるばらつきのない、一貫した指導内容の開発を行い、地元産業界等の人材を活用するなど実践研究も含めて、より一層の取り組みの強化を要望します。

〈質問〉 地域で学ぶ中学生体験週間としてのトライやるウィークは、学校・家庭・地域の3つのトライアングルを意味しており、地域が子どもを見守るという趣旨で全国に拡大したが、単なる職業体験の場になっていないか？近年、生徒増に比べて受け入れ事業所が減ってきているが、商店街などに改めて「受け入れ事業所の拡大」を要請してはどうか？本来の趣旨を理解して頂ければ、もう少し受け入れ先も増えるのではないかと。

〈答弁〉 今後生徒たちの多様化するニーズにも応えていけるよう、「受け入れ事業所の拡大」を進めていき、トライやるウィークが形骸化されないよう、引き続き地域との連携を図りながら充実させていきたい。



トライやるウィークの趣旨を改めて認識するとともに、事業所の拡大については「教育現場だけでの対応では難しいのではないかと」と感じます。さらなる発展のために恒久的な窓口を作り、地域と学校との連携体制をより確かなものにしていくべきではないでしょうか。

*②市職員の接遇向上に向けて

〈質問〉 市民サービスの基本となる窓口や電話対応を含めた接遇の向上に向けて、今後の方向性や具体的な取り組み方法を問う。

〈答弁〉 職員の年齢や経験年数も勘案しながら職員の各種研修は実施しており、接遇の向上に向けての取り組みを行っている。



「接遇研修の受講の一部は、任意の受講である」と聞いていますが、「受講していない職員との知識を共有する場所の設定」や「研修後のフォローアップの実施」は、なされているのかが疑問です。接遇向上に向けては、「仕事への慣れ」による慢心が生まれぬよう、謙虚な心で市民に寄り添い、丁寧でわかりやすい説明が行える体制作りを求めます。また、対応する職員のスキルの違いで当たり外れが無いよう、庁内全体の質の向上を望みます。

〈質問〉 昨年市民課で市民サービスに関するアンケートを実施したが、市民の皆様のニーズを把握していくためにも継続した取り組みを提案する。

〈答弁〉 今後もよりよい窓口サービスを提供できるよう、定期的実施して参りたい。



より多くの市民の声を吸い上げるためにも、市民課以外の課でのアンケートを実施し、問題抽出を行い、サービス向上を図るべきであり、また、市民の満足度を高める試みとして、定期的実施すべきであると考えます。

☆編集後記☆

2012年もへこたれず、あきらめずに責務を果たして参りますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。

◇福井みな子プロフィール◇

1962年4月生まれ
茨城キリスト教短期大学 英文科卒業
東京海上火災保険株式会社 本店勤務
日本航空株式会社 羽田空港支店勤務
コンチネンタル航空会社 客室乗務員
株JAL エクスプレス 客室乗務員指導
ホスピタリティツーリズム専門学校大阪 講師
平成23年芦屋市議会議員初当選
民生文教委員会委員、議会改革特別委員会委員
浜町在住

2・3月の議会予定

2/20 議会運営委員会	3/ 7 都市環境常任委員会・分科会
21 本会議 開会	8 民生文教常任委員会・分科会
22 都市環境常任委員会	9 総務常任委員会・分科会
23 民生文教常任委員会	12~14 委員会・分科会(予備日)
24 総務常任委員会	21 予算特別委員会
3/ 2 議会運営委員会	23 全体協議会・議会運営委員会
5 本会議	26 本会議閉会
6 本会議・予算特別委員会	

芦屋市議会議員 (イーブンあしや)
福井みな子 市政報告 No. 3 平成23年12月発行
(芦屋市議会) 芦屋市精道町7-6 TEL:(0797) 38-2001
(事務所連絡先) 34-0240 <http://www.fukui-minako.com>
E-mail: ashiya-shigi@fukui-minako.com